

# 出羽街道 ウォーキングマップ



## ⑥ 石畳古道整備



戦後、林業振興政策により木炭焼きが盛んとなり、街道に敷かれた石畳は木炭焼き用の窯の材料に用いられるなど運び去られてしまった。また、減反政策により山奥の田圃は休耕田となり、この道が作業道として使われることもなくなった。しかし、地元集落の人たちが街道の草刈りを続け、平成16年には「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に選ばれる。平成22年、有志により大沢峠石畳修復プロジェクトを結成。出羽街道の中で、唯一昔のままの姿で残っている大沢峠に石畳を敷き保存に努めている。

## ⑤ 大沢峠



大沢峠に敷き詰められた立派な石畳古道。これが敷かれた経緯には諸説あるが、天正16年(1588年)に本莊繁長が庄内を領める際、出羽街道の往来が頻繁となり石畳を敷いたと伝えられている。大沢には塩野町の民政を司る代官所の陣屋(軍兵の宿営する場所)があり、宿場として明治の中頃まで栄えていた。明治26年、塩野町から鼠ヶ関まで新道(旧国道7号線)が開通し、矢葺明神から大沢間は地元集落の人たちが農業・林業のための作業道に利用されるのみとなった。

## ③ 北中芭蕉公園



松尾芭蕉が河合會良を伴って江戸を出発した日から300年経った平成元年8月。旧山北町と「奥の細道あゆむ会」が開園した公園。緑鮮やかな竹林の中、芭蕉の詠んだ句「さはらねば 汲まれぬ月の清水かな」が刻まれた句碑がたっている。

## ④ 中村宿(北中)

松尾芭蕉が出羽街道を旅した際、温海に宿泊し、鼠ヶ関から村上へ向かう途中、8月12日に中村宿(現在の北中)に泊まったという記録が残っている。中村宿は当時旅籠屋が5軒あり、馬が常時7頭いた比較的大きい宿場町。芭蕉がどの宿に宿泊したかは定かではないが、小田屋か秋田屋佐右衛門だと言われている。

## ② 中継一里塚跡



川内神社境内に、江戸日本橋を起点として道路の両側に1里ごとに築いた105里の塚がある。出羽街道の遺構として貴重な塚で、昔は両側に築かれていたが、今現在は片側のみ、高さ約1.5m、直径約5.4mの塚が残されている。

### 出羽街道歳時記② 中継しだれ桜



中継ふれあいセンター付近には、約20本のしだれ桜が立ち並び、一斉に咲き誇る姿は圧巻。毎年4月下旬に「中継桜まつり」が開催される。

## ① 小俣宿



### 出羽街道歳時記① 日本国の山開き ~小俣宿でいっぶく~

毎年5月5日に日本国の山開きを兼ねて開催されるイベント。日本国山開き神事や小俣集落の民家を一般開放した「いっぶく処」の開設、地元特産品販売などが行われ、多くの人で賑わう。

小俣は、かつて日本の主要道であった出羽街道の宿場町として出羽三山への参拝者など多くの人々が訪れていた。標高555m「日本国」の登山口がある集落だ。明治維新では戊辰戦争の戦場となり、集落のほとんどが焼き払われてしまったが、その跡に再建された家々が現在も残っていて、昔の面影を想い出す。宿の玄関先には広い土縁、駕籠寄せが作られており、土縁柱には牛馬の口取縄を結ぶ駒繋ぎの金具が埋め込まれている。旅人宿の雰囲気を感じることができる。

### Access Map



## ⑫ 大満虚空蔵尊(猿沢)



僧行基が開山し、保元2(1157)年に雲上佐一郎が開基、鮎川清長再建したと伝えられている。日本三大虚空蔵尊のひとつと言われ、福德・知恵・円満の仏として信仰される。本尊は12年に一度、丑年に開帳され、毎年春(4月13日)、秋(10月23日)の大祭があり、大護摩祈禱を厳修する。

## ⑬ 一宮河内神社(宮ノ下)

朝日一の宮として信仰を集めている。祭神は、後白河上皇の第三皇子雲上佐市郎。境内に、文化7(1810)年7月と刻まれた神燈がある。

## ⑭ 古渡路の道標(古渡路)

旧県道村上・高根線を四日市から古渡路に入るとすぐの三叉路に立つ。延享年間(1744から48)建立の六十六部經典供養塔の左右に「左 出羽道、右 在道」と刻まれている。脇には庚申塔がある

## ⑩ 布曳滝(板屋越)



少ない水量ながらも優美な姿を見せる布曳滝、別名男滝。落差は約45mで、布を垂らしたような姿からこの名がついたと言われている。すぐ近く、別の支流には女滝と呼ばれる滝がある。落差は15mほどだが、男滝に比べ勢いよく、木々の隙間から落ちる姿が美しい。

## ⑨ 漆山神社(矢葺明神)



延喜式内社、別名矢葺明神。源義家が前九年の役に阿倍氏を討ちに行く際、漆山神社で休憩し、この戦に勝利したら弓矢で屋根を葺くと先勝祈願した。1062年、無事勝利をおさめた義家が船で帰路につくと、漆山神社の沖で舟が動かなくなり、約束通り屋根を弓矢で葺き替えたという伝説により、矢葺明神と呼ばれている。子宝・安産の神様としても知られ、遠方からも参拝客が訪れる。三十丈(約100m)あると記録された明神岩(実際は50mほど)は圧巻である。

## ⑧ 座頭落とし



大沢峠には急斜面の切り立つ崖を舞台とした「座頭落とし」と呼ばれる伝説がある。その昔、このあたりには山賊が出ると恐れられていた。旅のために金品を持ち歩いていた目の不自由な通りすがりの旅人を脅し、金品を奪った後、崖から谷底へ突き落とすとして殺害したのだ。そのためこの峠は往來の人々が恐れる場所となってしまった。

## ⑦ 峠の笠松



大沢峠に伝わる物語。この地に大きな笠の形をした松の木が生えていて、街道の道標となっていた。かつてお伊勢参りに行くことは、水盃を取り交わして行かねばならない程の旅だった。昔、お伊勢参りに行く夫の道中の安全を祈りながら、この松の木の下で水盃を取り交わし送り出したが、何時になっても帰らない夫をこの松の木の下で幾日も幾日も待ち続け、ついには帰らぬ人となったと伝えられている。

県指定無形民俗文化財。弘化元年(1844)冬、庄内の黒川能役者、蛸井甚助が庄屋中山家に滞在した際、村人たちに伝授したのが起源だという。毎年、4月3日には能舞台のある八坂神社の祭礼で奉納されるほか、8月15日には新能が行われる。

